

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

昨日（10日）、岩手県の協力により実施した上空からの観測では、女岳及びその周辺で噴気や地表面等の状況に特段の変化はなく、男女岳付近にも特段の異常は認められませんでした。

秋田駒ヶ岳では、火山性地震の増加が時々みられ、火山性微動と低周波地震¹⁾が発生したことから、火山活動が高まっている可能性がありますので、今後の火山情報に注意してください。

また、女岳周辺では噴気活動がみられますので注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～図4、図5-①）

昨日（10日）、岩手県の協力により実施した上空からの観測では、女岳の南東火口、北東斜面、北斜面、山頂北部及び山頂付近の噴気や地表面等の状況に特段の変化はなく、男女岳付近にも特段の異常は認められませんでした。

東北地方整備局が設置している監視カメラによる観測では、これまでと比較して特段の変化は認められません。

・地震や微動の発生状況（図5-②～⑥）

低周波地震が3月6日から14日にかけて7回発生しました。低周波地震の振幅は概ね小さく、震源はいずれもカルデラ付近と推定されます。また、4月3日02時13分頃に振幅の小さな火山性微動が発生し、その直後にも低周波地震が発生しました。これらのことから、火山活動が高まっている可能性があります。火山性微動の発生に伴う地殻変動は認められず、その後の地震活動に特段の変化はみられません。

男女岳山頂付近を震源とする火山性地震が2017年7月以前と比較してわずかな増加傾向が認められていますが、1月以降は少ない状態で経過しており、低周波地震及び火山性微動の発生に伴う特段の変化はみられません。

- 1) 火山性地震のうち、P波、S波の相が不明瞭で、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震と考えられ、主に1～3Hzの低周波成分が卓越した地震です。火道内の火山ガスの移動やマグマの発泡など火山性流体の動きで発生すると考えられています。火山によっては、過去の事例から、火山活動が活発化すると多発する傾向がある事が知られています。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気の様相 (4月10日13時10分頃)

- ・仙岩峠 (女岳山頂の南約5km) に設置されている監視カメラ (東北地方整備局) による映像です。
- ・赤丸で囲んだ部分が、女岳からの噴気で噴気の高さは10mです。

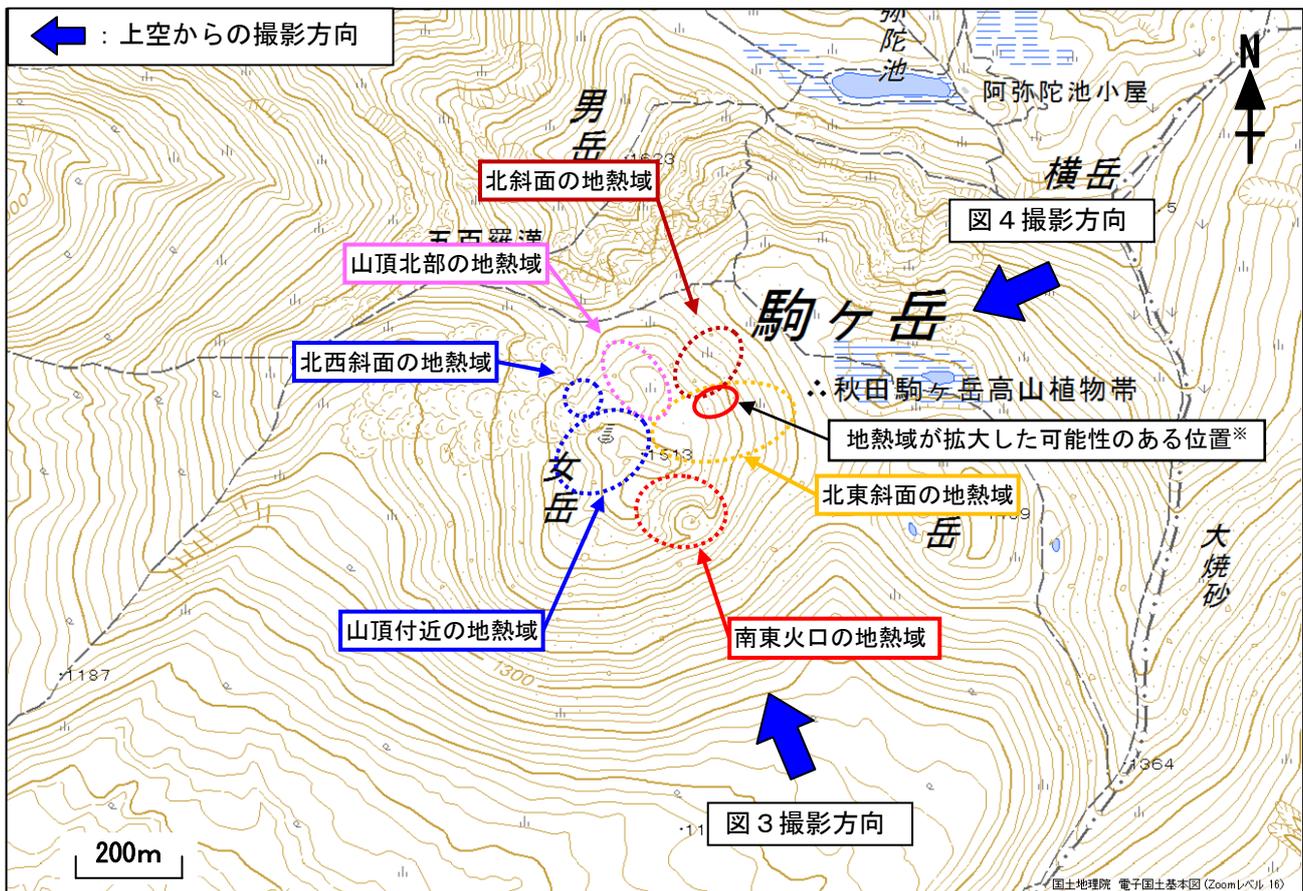


図2 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域の分布及び写真の撮影方向

※前回 (3月28日) の地表面温度分布²⁾ の観測でみられた地熱域が拡大した可能性のある位置。

- 2) 赤外熱映像装置による観測。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

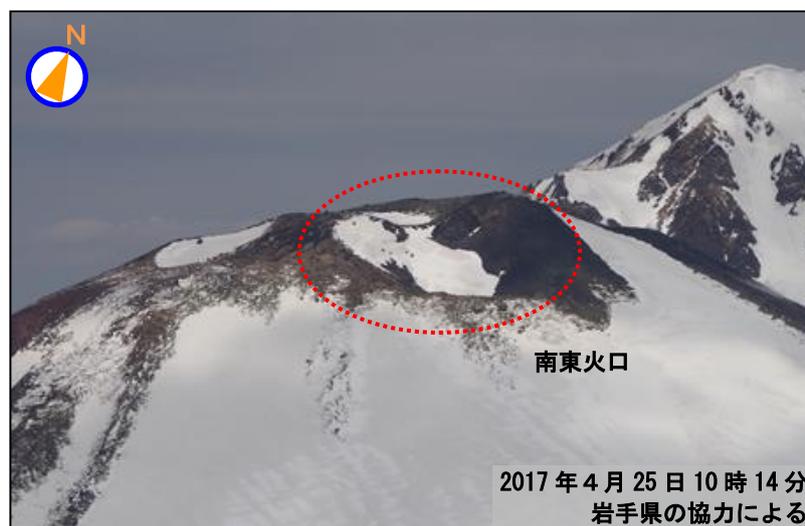
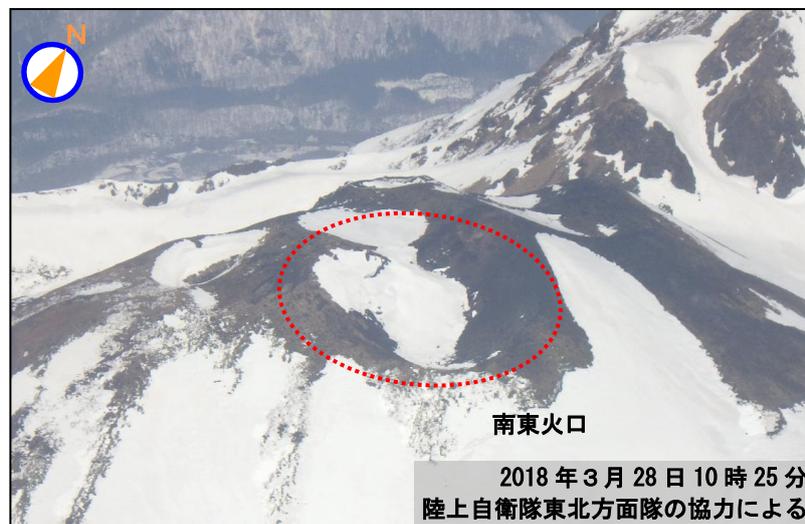
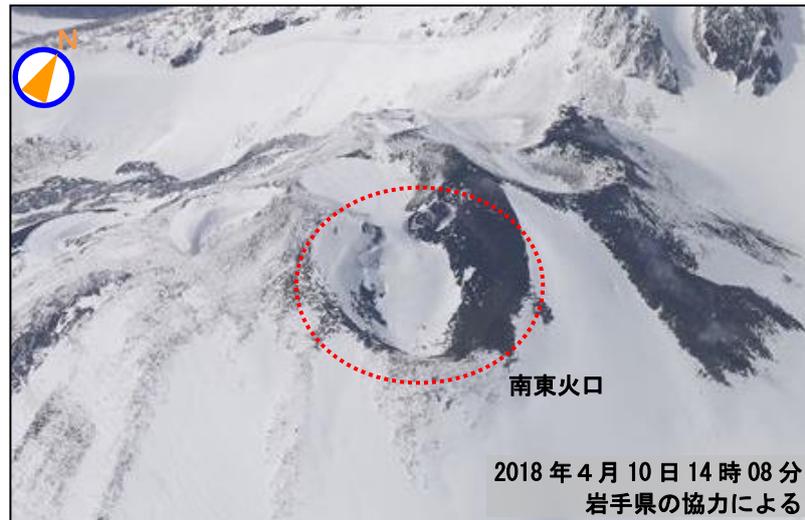


図3 秋田駒ヶ岳 上空から撮影した女岳南東火口の状況

- ・弱い噴気を確認しましたが、噴気や融雪域の状況に特段の変化は認められませんでした。
 - ・図中の破線の色は図2の破線の色に対応します。
- ※今回の観測は、降雪後に行いました。

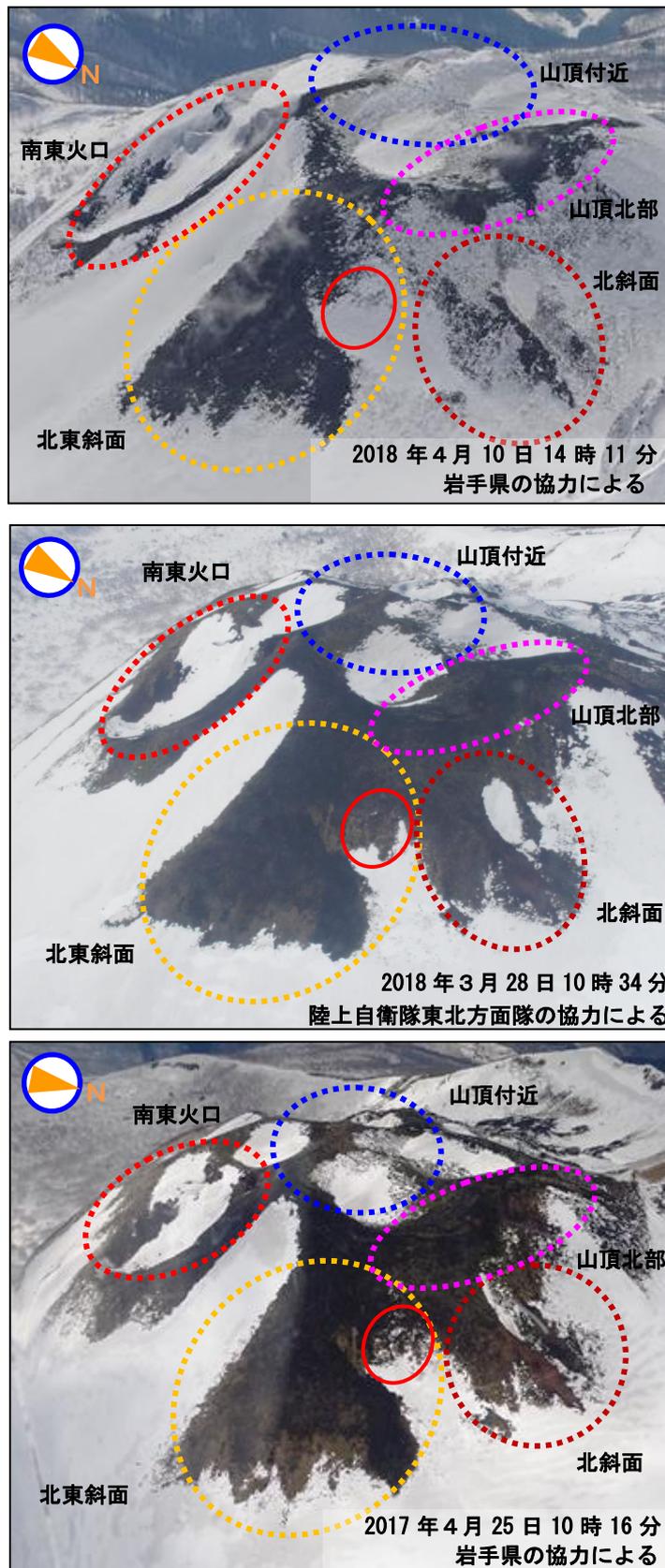


図4 秋田駒ヶ岳 上空から撮影した女岳南東火口付近、北東斜面、北斜面、山頂北部及び山頂付近の状況

- ・弱い噴気を確認しましたが、噴気や融雪域の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・前回（3月28日）の観測でみられた地熱域が拡大した可能性のある位置（赤丸）では、融雪域の拡大等は認められませんでした。
- ・図中の線の色は図2の線の色に対応します。

※今回の観測は、降雪後に行いました。

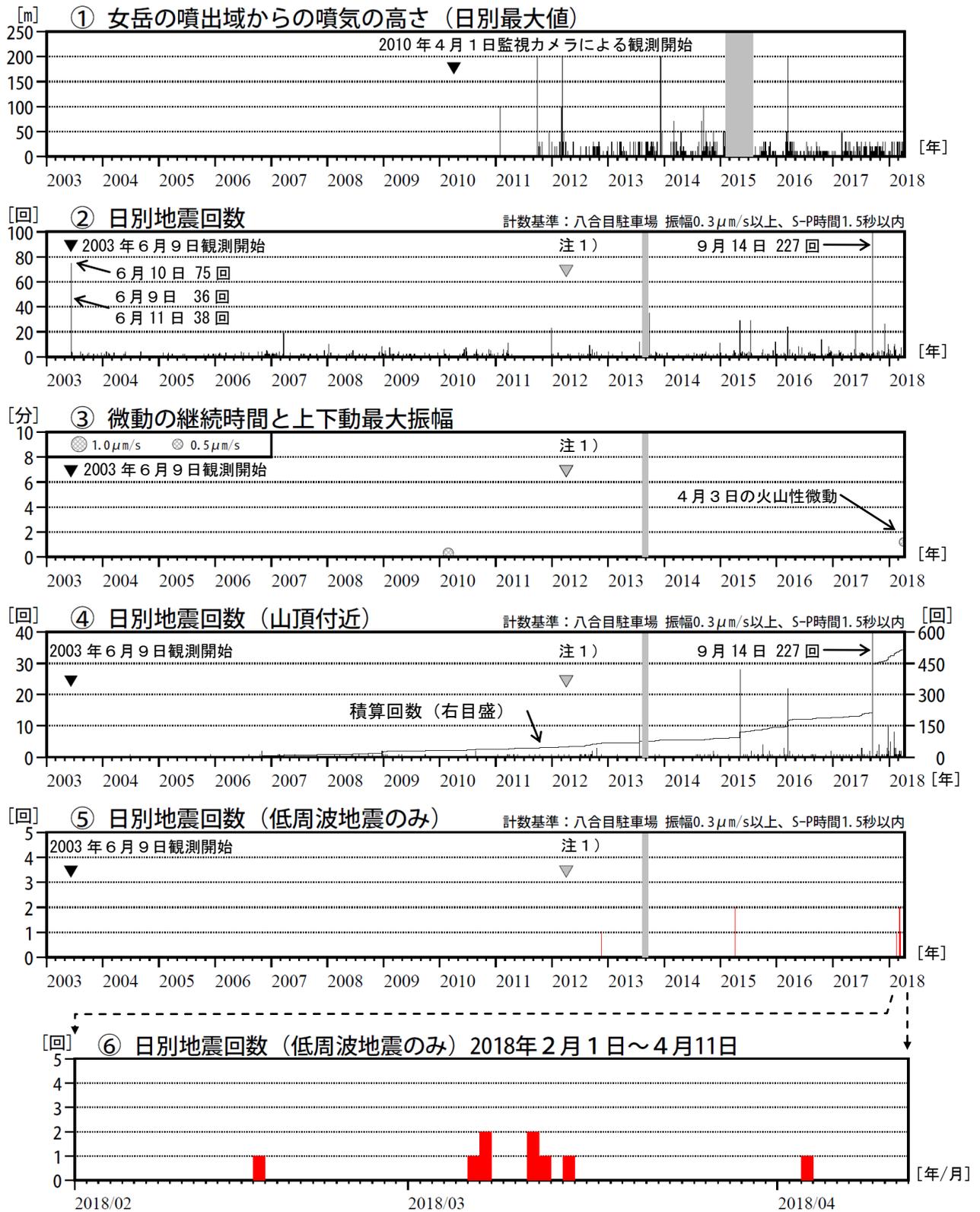


図5 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図 (2003年6月9日～2018年4月11日09時)

- ・①仙岩峠 (女岳山頂の南約5km) に設置されている監視カメラ (東北地方整備局) による観測です。
 - ・①～⑤の灰色部分は欠測を表しています。
 - ・データは速報値を含んでおり、精査後修正する場合があります。
- 注1) 観測開始の2003年6月9日から東北大学秋田駒ヶ岳観測点を基準としていましたが、2012年4月1日から八合目駐車場観測点を基準としています。

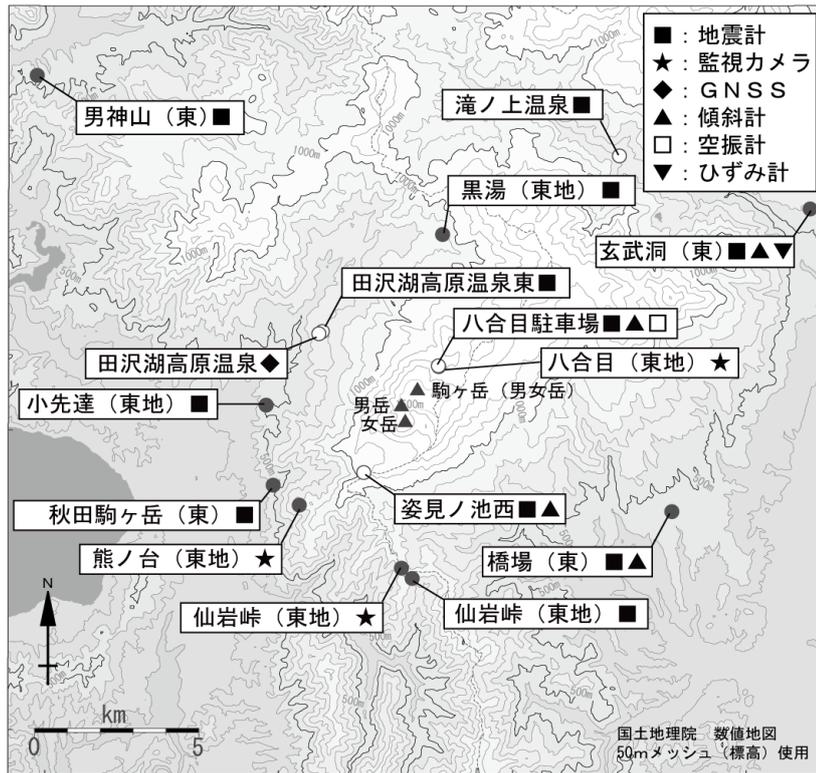


図6 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

(東地) : 東北地方整備局 (東) : 東北大学